

英語学習者のエッセイに見られる過剰使用語 —学習者コーパスの構築を視野に入れて—

松田紀子・石井隆之・岩田雅彦・西美都子・濱崎佳子*

Overused Words in the Essays of English Learners : Possibility of Building a Learner Corpus

Noriko MATSUDA, Takayuki ISHII, Masahiko IWATA,
Mitsuko NISHI, Yoshiko HAMAZAKI

Abstract

The aim of this study is to show the results of surveys conducted to find out the state of overused words in the essays of English learners at the Faculty of Applied Sociology, Kindai University. A dataset of 150 English learners was compared to that of English native speakers using the learner corpora ICNALE (International Corpus Network of Asian Learners of English) and NICER (Nagoya Interlanguage Corpus of English Reborn). Key overused words showed that English learners tend to overuse personal pronouns, basic verbs, and nouns describing familiar existence such as “mother” and “friend.” Further analysis based on their proficiency levels revealed that the level of lexical variety in the essays was higher in high proficiency learners. Proficient learners were characterized by the overuse of “we” rather than the third person such as “he” or “she,” and the underuse of basic verbs and nouns describing familiar existence. We also discuss the possibility of building a learner corpus with this data, which will serve as a valuable database for future English learners and educators.

Keywords : ① Overused Words ② Learner Corpus ③ Keyword Search ④ Proficiency

1. はじめに

近畿大学総合社会学部では、「未来志向の実学のためのことばの学習」を英語プログラムの目標の1つとして掲げている。そのため、1年生で必修となる基幹科目の英語演習1(前期)と英語演習2(後期)では、ライティングやスピーキング等の発信型スキルを養う。特にライティングに関しては、週に2回ある授業のうち、1回はコンピュータルームを使用し、タイピングの練習をしながらパラグラフ・ライティングの基礎までを学ぶことになっている。

2010年の開設当初から、総合社会学部では *Criterion*^{®1} という自動評価ができる英語ライ

ティング指導支援ツールを使用している。オンライン上のサービスであるこのツールを利用して、中間試験及び期末試験として30分の共通ライティングテストを実施している。エッセイのモードは決まっているが(例えば前期ではNarrative か Descriptive), *Criterion*[®] にはあらかじめ決められたLevelとTopicがあり、教員が学生の習熟度を考慮してこれらを選択するようになっている。教員はいつでも学生が提出したエッセイを見ることが可能になっている。

本稿の目的は、個人やクラスの単位ではな

受付：令和1年11月11日 受理：令和2年1月10日

*近畿大学総合社会学部 教養・基礎教育部門

く、近畿大学総合社会学部で学ぶ英語学習者のエッセイを収集し、学習者の過剰使用語の実態を探るために行った調査とその結果を示すことである。将来的に学習者のエッセイを集積し、データベースを作成することも視野に入れているため、以下に関連する大型の学習者コーパス（電子化された大量の言語資料のこと）とそこから得られた知見を紹介する。

2. 先行研究

中間言語対照分析等でよくみられる学習者の過剰使用語の分析では、学習者コーパスの使用による量的研究が増えてきている。語の出現頻度を調べ、統計的な手法を用いて母語話者と学習者の言語使用を比較することが容易だからである。学習者は基本名詞や基本動詞、助動詞、量化詞を多用することが約20年前から指摘されている(Granger, 1998)が、ここでは、本稿で対象となる大学生を対象とした学習者コーパスに焦点を当てたい。

公開されている国内の非英語母語話者の大学生を対象とした大型の英語学習者コーパスのうち、特に書きことばを収集しているものとして、ICNALE及びNICERをあげることができる。ICNALE (International Corpus Network of Asian Learners of English) は神戸大学の石川慎一郎氏が中心となり、アジア圏10か国の大学生と英語母語話者合わせて2,800人が「大学生のアルバイトの是非」と「レストラン全面禁煙の是非」という2つのトピックについて作文もしくは発話をしたデータを収集したものである。特徴的なのは条件が統制されている(トピック、プランニングを含んだ執筆時間と作文の長さ)点で、辞書使用は禁止され、ワープロとスペルチェッカーを使用している。作文に関するコーパスは2007～2012年度に構築されており、5,600本で130万語とされている(石川, 2019)。Ishikawa (2013)では、日本人英語学習者と英語母語話者のデータを比較し、過剰使用語を抽出している。2つのデータに出現している語で対数尤度比 Log-likelihood ratio (以下、値をLLとして表記)が

高い(つまり互いに比較して特徴的に頻度が高い)もののうち、トピックに関連する語を除いて分析した結果、1人称複数代名詞 *we* や *people*、論理関係や接続関係を明示する語 *but* や *so*、思考動詞 *think* 等を過剰に使用していることがわかった。また、習熟度が上がるにつれて各過剰使用語におけるLLは下がっていくことも指摘している。

NICERの前身であるNICE (Nagoya Interlanguage Corpus of English) は名古屋大学の杉浦正利氏が構築したもの(Sugiura et al., 2007)で、11のトピックを使用し、ICNALEと同様に条件を統制(プランニングを含む執筆時間は約1時間、作文の長さは500語程度)して非英語母語話者の大学生と大学院生及び英語母語話者が辞書使用なしでワープロを使用し、最後にスペルチェッカーを使用してスペルミスを修正した作文を収集している。現在はNICER (Nagoya Interlanguage Corpus of English Reborn) 1.1として公開されており(2019年4月4日時点で計420ファイル)、「education」「money」「sports」の3つのトピック²に絞り、各作文に対する*Criterion*[®]の自動評価の点数もデータとして記載されている。NICEを使用した分析(投野・金子・杉浦・和泉, 2013)では、*TOEIC*[®] 600点以下の学習者グループと*TOEIC*[®] 650-760点の学習者グループで強意副詞、特に *very* や *so* といったboosterを過剰使用することが指摘されている。また、中級者(*TOEIC*[®] 400-729点)が前置詞 *of* を過少使用すること、語彙の広さが習熟度を分けること等が指摘されている。

3. 方法

ここまでICNALE及びNICERについて関連する知見を概観してきたが、実際にエッセイを集め、同様の傾向が見られるか検証する。リサーチクエスションは、(1) ICNALEやNICERで見られたような学習者の過剰使用語の実態が見られるか、(2) 学習者の習熟度によって過剰使用語のLLや使用そのものに変化が見られるかである。

ICNALE 及び NICER は本来同じトピックで非英語母語話者と英語母語話者の英作文を比較することでその真価を発揮すると考えられる。今回のエッセイ・ライティングはテストとして実施したものであり、同じように統制された条件で英語母語話者のものを収集したものは存在しない。そのため、分析には条件がある程度統制された2つの英語母語話者の英作文を併用し、共通してみられる過剰使用語を LL を使用して抽出した。

3.1 参加者

筆者らが担当している総合社会学部の1年生の英語演習のクラスの学生に対して協力を求めた。調査の概要を説明し、同意書を準備し、あくまで任意のものであり、成績に反映されることは一切ないことを説明した。本研究では、この同意書に記名した学生153人のエッセイのうち、与えられたトピックとは関係ない内容を書いていると思われた3人分のエッセイを除外し、150人分を使用した。

英語演習のクラスは、習熟度別のクラス構成となっており、大きく I～III に分類される。学生は4月に TOEIC Bridge[®] を受験しているのだが、筆者らが担当しているクラスのうち、レベル I と II のクラス (5クラス) の平均点は 138.58 ($SD = 4.64$)、レベル III のクラス (3クラス) の平均点は 156.78 ($SD = 6.16$) であった³。また、1年生のうちは英語演習と Oral English という科目が必修科目となっており、学習環境に大きな違いはないと考えられる。

3.2 手続き

期末テスト (2019年8月1日と8月6日) として Criterion[®] を使用して提出されたエッセイのうち、同意書に記名した学生のをダウンロードし、ワードにはりつけた。述べ語数 (token) 40631 語、異なり語数 (type) 3023 語であった。また、語彙の多様性を示す TTR (type/token) は 7.44% であった。過剰使用語を調べるには綴りのミスを修正する必要があったため、第1筆者とカナダ出身の英

語母語話者 (人類学で修士号を持ち、2010年から英語講師及び翻訳者として日本に在住している) 2人でエッセイの綴りのミス (483語で全体の1.19%) を手作業で修正した。第1筆者と英語母語話者が綴りのミスとして抽出した語の一致率は 98.96% で信頼性は十分高いと考える。なお、単語の間にスペースを入れてしまっている場合や (例: boy friend [誤] → boyfriend [正]) 単語の間にスペースを入れるべきなのにに入れてない場合 (例: oneday [誤] → one day [正]) は綴りのミスとしてカウントした。

エッセイのトピックは Descriptive では 5th Grade の「Feeling Happy」、Narrative では 6th Grade の「Alien Encounter」、 「Desert Island」、 「Lesson Learned」であった (資料1参照)。バリエーションがあるが、分析対象語数が少ないことと、過剰使用語の分析ではトピックと課題文に関連する語は分析から除外されることから、すべてを使用した。ICNALE や NICER と大きく異なる点として、このエッセイ・ライティングでは、辞書等を使用して調べて一度完成させたエッセイを、30分の制限時間の中で何も見ずに思い出して書いていた。

分析には早稲田大学の Laurence Anthony 氏が開発したコンコーダンス・ソフトウェアである AntConc3.5.8 (Windows) 2019 を使用した。テキスト化したエッセイを読み込ませ、ICNALE 及び NICER における英語母語話者のデータをそれぞれ参照コーパスとして使用した。AntConc では Keyword List を使用して過剰使用語を抽出するのだが、特徴度 (keyness) として現れるのが、LL で、2つのデータの間の頻度差の著しさを表す統計的な指標となる。

4. 結果

ICNALE と NICER を使用して抽出された過剰使用語のうち、LL が 100 を超えるものを選び、トピックと課題文 (資料1) に関連する語 (表記形では alien, aliens, back, earth, got, happened, home, honest, honesty, island, lie, looked, planet, sky, spaceship, story, strange,

three) を分析から除外したのち、これら2つの結果に共通する18語を抽出した。

表1はその18の過剰使用語を示したものである。まず、表1から読み取れることとして、先行研究で指摘されていた *we* を含む人称代名詞 (*he, her, I⁴, my, me, she*) が多用されていることが分かる。また、基本動詞 (表記形では *came, said, told, wanted, was, went, were*) や思考動詞 (表記形では *thought*) を多用する傾向にあることも伺える。これらの結果は先行研究とある程度一致する内容である。さらに興味深いこととして、身近な存在である *mother* と *friend* という名詞を多用していることがわかる。この2語のコンコダンス検索結果を図1⁵と図2に示した。コンコダンスの分析により、この2語はトピックに関係なく過剰に使用されていることがわかった。

次に習熟度別の分析を示す。先述のように習熟度はクラスによって大まかに分かれてい

るため、レベルIとIIを1つのグループ(5クラス)にし、レベルIII(3クラス)と分け、過剰使用語がそれぞれ異なるかどうかを調査した。表2は *Criterion*[®] の各トピックにおける習熟度別の参加者の人数を示したものである。レベルIとIIのグループのデータの述べ語数 (token) は23908語、異なり語数 (type) は2252語であった。また、語彙の多様性を示す TTR (type/token) は9.42%であった。レベルIIIのグループの述べ語数 (token) 16723語、異なり語数 (type) 1872語であった。また、語彙の多様性を示す TTR (type/token) は11.19%であった。この結果から、習熟度が高い方が語彙に多様性が見られることが分かる。

表3は ICNALE の英語母語話者のデータと比べたもので、表4は NICER の英語母語話者のデータと比べたものである。まず、全体的な傾向として、習熟度が上がると過剰使用語の LL が下がることが分かる。しかし、*we* と

表1 ICNALE と NICER を使用して抽出した過剰使用語 (表記形) のデータ

過剰使用語 (ICNALE)	頻度	LL	過剰使用語 (NICER)	頻度	LL
<i>i</i>	2619	1491.01	<i>i</i>	1594	1135.45
<i>was</i>	973	1344.26	<i>was</i>	588	1030.27
<i>said</i>	324	633.80	<i>said</i>	195	497.20
<i>my</i>	663	436.41	<i>my</i>	469	452.26
<i>we</i>	535	390.42	<i>went</i>	98	254.37
<i>went</i>	160	317.23	<i>mother</i>	76	220.64
<i>me</i>	357	278.29	<i>me</i>	219	215.46
<i>were</i>	269	276.47	<i>we</i>	264	190.00
<i>day</i>	181	207.19	<i>day</i>	118	177.65
<i>mother</i>	93	200.32	<i>he</i>	99	158.35
<i>came</i>	101	185.75	<i>were</i>	138	157.04
<i>she</i>	112	171.60	<i>she</i>	76	154.90
<i>told</i>	92	150.38	<i>told</i>	67	148.37
<i>thought</i>	107	146.78	<i>her</i>	65	142.76
<i>he</i>	128	141.40	<i>came</i>	53	122.48
<i>her</i>	85	135.72	<i>thought</i>	65	113.43
<i>friend</i>	70	126.70	<i>wanted</i>	52	112.90
<i>wanted</i>	76	123.90	<i>friend</i>	45	106.92

Concordance | Concordance Plot | File View | Clusters/N-Grams | Collocates | Word List | Keyword List

Concordance Hits 93

Hit	KWIC
1	ought that he did not have to apologize to them. But he remembered his mother said "If you happen an accident, you need to apologize honestly."
2	He thought that the honesty was very important and the phrase that his mother said was true. I heard this surprising story from him next day
3	My grandmother was bright, playful, and attractive person, but when my mother was young she was boring and seemed to be unfriendly to my mo
4	mother was young she was boring and seemed to be unfriendly to my mother. However, their relationship improved by her grandchildren were
5	re born. All too well, the death of my grandmother was unbearable to my mother. My mother regretted my grandmother's death more than anyone
6	oo well, the death of my grandmother was unbearable to my mother. My mother regretted my grandmother's death more than anyone else. I saw
7	ther regretted my grandmother's death more than anyone else. I saw my mother crying, saying "I wish I had more thanks." and I realized that it's r
8	embarrassed and tried to get rid of the dirt but couldn't. A little later, my mother came back from shopping. As soon as she looked at the carpet, sf
9	I "Who soiled the carpet?" I was scared and couldn't give myself up to her for me. I was surprised to
10	myself up to her for me. I was surprised to see him. He was scolded by my mother. I thought that it was wrong for him to be scolded instead of me, :
11	is wrong for him to be scolded instead of me, so I said "I did it." Then my mother told him that it was great to cover your sister, and she told me th
12	it is important to be honest though this story. One day, I talked with my mother about my future. She said, how about to be teacher for me becau
13	o her terrible thing yesterday. So I was going to said sorry to her. I told mother, and said "I am sorry." and told my dream. Therefore, I thought
14	from the reality of the life. I decided to stop going to school. I said to my mother that I caught a cold and wanted to be absent. My mother worried
15	bl. I said to my mother that I caught a cold and wanted to be absent. My mother worried my body. My mother called my teacher and said to him it
16	ought a cold and wanted to be absent. My mother worried my body. My mother called my teacher and said to him it. I was able to be absent from
17	game all day. But I felt guilty to lie. I stop playing game and said to my mother the truth. Because of all, I think that honesty is the most impx
18	n order to refuse his suggestion. I said "Sorry, Mr. [redacted]. Recently, my mother go sick in bed, so I take care her. I have to clean my house, make
19	s. When I was 7 years old, I told a lie. Because I didn't be angry at my mother. I wanted to try her lipstick. It color was cherry red. It was very c
20	my doll?" [redacted] was looking for her plush doll of a girl that made by her mother. It was precious for her. I didn't have such a thing, so I was jealou
21	ter a while, she gave me a very cute girl doll that made by [redacted] and her mother. She said, "Let's play with them!" I was so happy. I learned the im
22	s with [redacted]. My character and [redacted] character were exactly opposite. My mother didn't like me because I can't do properly and I was bad grade. O
23	me because I can't do properly and I was bad grade. On the other hand, mother liked [redacted] because she can do properly and she was good grade.
24	be brave and could help her. When I got home, the phone rang and my mother answered the phone "Thank you for today. I was very happy." An
25	hat, my classmate said to me "Thank you for the help this time." Then my mother said "You are wrong the person to tell. The person who helped yo
26	went to movie by myself. I was lonely when I did something. I asked my mother why I can not make a friend. My mother said "You do not ask othe
27	r. I did something. I asked my mother why I can not make a friend. My mother said "You do not ask other people. You talk to more them. Honest

Search Term Words Case Regex Search Window Size 100

mother

Kwic Sort

Level 1 0 Level 2 0 Level 3 0

(黒塗りは固有名詞)

図1 mother のコンコーダンス検索結果

Concordance Hits 70

Hit	KWIC
1	en, teachers found us and asked us why we went out. I wanted to lie, the friend honestly apologized. After that, our teachers kept getting angry. A
2	riends, including myself, began to be warned by teachers. But my honest friend was the same at usual. After that, his attitude appreciated, and he v
3	we took some pictures which are beautiful view. At that time, one of my friend said that "Something white in this picture!" But everyone did not be
4	ant for me to talk about honest opinion. I was very happy to have a lot of friend who can speak honesty. I think that honest talking causes to make
5	baseball skills, but your minds always help you." One day, I went to my friend's house to study with my friend. I took a short break in a small park
6	always help you." One day, I went to my friend's house to study with my friend. I took a short break in a small park with no one. Then there was
7	yen. At that same time, I was very happy and lucky. I forgot to go to my friend's house and took the suitcase home and I seriously thought about l
8	ind. and honesty is the best policy. However I was been so angry for my friend because I forgot to go to my friend's house to study with my friend
9	However I was been so angry for my friend because I forgot to go to my friend's house to study with my friend. This is a story from which I learn
10	or my friend because I forgot to go to my friend's house to study with my friend. This is a story from which I learned the importance of honesty. Th
11	bl rules. I had never brought snacks to school. However, I got it from my friend and ate it only once at school. One morning, a teacher found out
12	I would tell the teacher by myself. This is because, I got snacks from my friend only once at school. After a lot of consideration, I decided to tell the
13	to do. OK, I give up to join you." Because of my great lie, I can go to friend's house. We enjoy to play game very much. Two hours later, One c
14	's house. We enjoy to play game very much. Two hours later, One of my friend say that I want to go to park. All of us agree this suggestion. This p
15	rtant to be honest. This is a true story of what happened to me. I had a friend, when I was in the elementary school. His name is [redacted]. He was a
16	that honest is very important. I knew people should deal honesty with a friend. I understood the importance of honesty owing to be a deputy capt
17	too. One day, I was invited to go the fireworks display by one of my friend. However, I promised to go to the festival with my boyfriend. The
18	However, I promised to go to the festival with my boyfriend. Then, my friend didn't knew that I have a boyfriend. So I thought the other reason
19	oice I always hear and I knew well. I couldn't believe it. That was the my friend. I wasn't able to say nothing when I saw her because I was surpris
20	ent for me. I was very excited that I practiced hard until today. Then, my friend the from same part said, "You are good player, so I think your cont
21	hed. I hit the my senior's flute. The moment nobody move and speak. My friend said, "I saw that you are hit it." I noticed that I hit the flute. But not
22	he accident was happened. One day, I promised to play in the park with a friend after school. I was looking forward to play after school so I arrived
23	rived at the park early. I spent a long time to wait only by myself. But my friend did not come there. He broke a promise. This is the first time that I y
24	when I was child. I wanted to make many friends. But I could not make friend. Everyone have many friends and they laugh with their friends. I sa
25	aw it. I only can see such a thing. I thought that why I do not make a friend. I say hello. I am nice. I am kind other people. I laugh at them. Why
26	. I am nice. I am kind other people. I laugh at them. Why I can not make friend and other people can make many people? Other people went to sch
27	o. I am nice. I am kind other people. I laugh at them. Why I can not make friend and other people can make many people? Other people went to sch

Search Term Words Case Regex Search Window Size 100

friend

Kwic Sort

Level 1 0 Level 2 0 Level 3 0

(黒塗りは固有名詞)

図2 friend のコンコーダンス検索結果

表2 Criterion® の各トピックにおける習熟度別の参加者の人数

トピック	Criterion®		参加者	
	レベル	モード	習熟度レベル	人数
Feeling Happy	5th Grade	Descriptive	II	11
Alien Encounter	6th Grade	Narrative	II	40
			III	21
Desert Island	6th Grade	Narrative	III	36
Lesson Learned	6th Grade	Narrative	I	20
			II	22

それに共起する were に関して例外的に LL の数値が高くなっている。つまり習熟度が高くなると、1 人称単数代名詞よりも 1 人称複数代名詞を多用することがわかる。NICER を使用した場合は 3 人称の he と her は抽出されていない。また、基本動詞の LL が低くなっている。

習熟度が高くなり、表現に幅が増えればこうした動詞の LL が下がる可能性を指摘できる。このことは名詞全般の使用についても言える可能性が高い。同様に mother や friend 等の身近な存在に関する言葉についても習熟度が上がると LL の数値が低くなっており、NICER

表3 ICNALE を使用して抽出した習熟度別の過剰使用語（表記形）のデータ

過剰使用語 (レベルI&II)	頻度	LL	過剰使用語 (レベルIII)	頻度	LL
i	1594	1135.45	was	385	736.21
was	588	1030.27	i	1025	708.66
said	195	497.20	said	129	377.26
my	469	452.26	we	271	322.52
went	98	254.37	were	131	206.90
mother	76	220.64	went	62	183.68
me	219	215.46	came	48	135.37
we	264	190.00	me	138	134.66
day	118	177.65	my	194	103.05
he	99	158.35	day	63	88.81
were	138	157.04	thought	42	79.56
she	76	154.90	she	36	71.27
told	67	148.37	friend	25	64.56
her	65	142.76	wanted	24	51.46
came	53	122.48	mother	17	51.12
thought	65	113.43	told	25	50.42
wanted	52	112.90	her	20	36.11
friend	45	106.92	he	29	26.05

表4 NICER を使用して抽出した習熟度別の過剰使用語 (表記形) のデータ

過剰使用語 (レベルII)	頻度	LL	過剰使用語 (レベルIII)	頻度	LL
i	1594	2292.24	i	1025	1574.62
was	588	795.95	was	385	561.94
my	469	551.11	we	271	362.55
said	195	394.85	said	129	295.78
me	219	266.94	were	131	185.37
went	98	230.47	me	138	174.41
we	264	225.76	went	62	166.75
day	118	171.75	my	194	152.55
were	138	137.22	came	48	102.32
friend	45	131.96	friend	25	87.58
told	67	123.53	day	63	87.22
he	99	121.65	thought	42	71.45
mother	76	110.37	told	25	38.83
thought	65	101.59	wanted	24	34.91
came	53	89.09	she	36	28.24
wanted	52	84.36			
she	76	79.87			
her	65	61.72			

を使用した場合、mother は抽出されていない。

5. 考察

英語学習者のエッセイを活用して、過剰使用語の実態を探るために行った調査とその結果をまとめてきたが、先述したリサーチクエスチョンを振り返り、簡単に英語学習者に見られる過剰使用語の実態を見ていきたい。まず、「(1) ICNALE や NICER で見られたような学習者の過剰使用語の実態が見られるか」という問いに関してはおおむね見られたと答えることができる。先行研究で ICNALE の分析結果から we の多用が見られたが、本研究では we だけではなく、人称代名詞全般の多用が見られた。また、先行研究では思考動詞 think の多用が見られたが、本研究では think (表記形は thought) のみではなく、基本動詞が多用されていた。また、本研究で特徴的なこととして、身近な存在である mother と friend の多用があげられる⁶。

次に「(2) 学習者の習熟度によって過剰使用語の LL や使用そのものに変化が見られるか」という問いに関しても、おおむね見られたと答えることができる。先行研究と同様に、過剰使用語の LL は習熟度が高いグループでは低くなることがわかった。ただし we は例外で、習熟度が上がると、1人称単数代名詞よりも1人称複数代名詞に重きが置かれることが示された。習熟度が高いほど、文中で個人間の対人関与度が下がっていることが、どのような意味を持っているのかを明らかにするには、更なるデータの分析が必要だろう。しかし、語彙の多様性は習熟度が上がるほど高くなることを考えると、語彙が多様になり、表現の幅が広がることでエッセイの内容に質的な変化が生まれる可能性を指摘できる。習熟度が上がるほど、基本動詞の使用が減少することや身近な存在であった mother や friend の使用が減少する理由についても同じことが言えるだろう。表現の幅が広がることで身近なもの

から離れ、外の世界を表現していこうとするのは自然なことなのかもしれない。これもまたエッセイの内容の質的变化と捉えることはできないだろうか。

6. 結 論

ここまで、英語学習者のエッセイをデータベース化し、学習者コーパスである ICNALE 及び NICER における英語母語話者の英作文コーパスを使用して過剰使用語を抽出し、分析結果と考察を示してきた。また、習熟度別の分析を行うことでエッセイ・ライティングをする上での語彙の多様性がエッセイの内容の質的变化と関連している可能性を示唆した。この示唆は、実は本研究のリミテーションにもつながっている。内容について言及するのであれば、エッセイ全体の評価が必要となってくるのだが、本研究ではエッセイの評価は考慮に入れていない。Criterion[®]による自動評価をそのまま使用するのが妥当かどうか不明である。また、本研究で抽出された、いくつかの特徴的な過剰使用語を教示することで、学習者の語彙使用にどのような変化が生まれるかを探るのは、今後の課題となるだろう。例えば、本研究のデータは、ある習熟度の学習者に一定の過剰使用語を使用しないように教示することの是非を検証するための資料となりうる。学習者によって算出されたデータを使用して実証的な研究を重ねることで、より実用的な教材開発等もおこなえると考えられる。

本研究は語の分析にとどまっているため、共起表現の分析も今後の課題となっている。さらに、本研究の重要なリミテーションとして、エッセイが事前に辞書を使用して書かれたものであることがあげられる。こうしたデータ収集の違いが、どのような影響を生むのかは今後調査する必要がある。最後に学習者と教育者に資するためのコーパスの構築の可能性について言及したい。

大量のエッセイを集積することで学習者全体の言語使用を観察することが可能となり、

習得困難なことは何か、言語習得にはどのようなメカニズムが働いているのかを知ることができる可能性がある。本研究でも、不十分ではあるが、学習者の言語使用を観察し、一部新たな知見を得たと考える。現在、収集したエッセイは個々の教員で保持されているが、学習者の協力を得た上で、より良い指導や研究に役立つデータベースの構築を考へても良いのではないだろうか。近年、英語教育や言語習得研究に役立つと考えられる大型の学習者コーパスの構築が試みられているが、今後の教材開発、カリキュラムや制度を考へる上でも貴重な資料になると考えられる。

註

1. Criterion[®]は TOEFL[®] テストで知られているアメリカの ETS (Educational Testing Service) が開発したライティング専用の LMS (Learning Management System) である。TOEFL iBT[®] で使用されている e-rater[®] という自動採点エンジンによる採点が行われることが特徴である。
2. 本稿で使用している Native 用の Topic に関する Instruction は “Choose one of the topics listed below: education (改行) money (改行) sports” となっている。
3. ETS (<https://www.ets.org/toeic>) のデータによれば、レベル I と II のクラスの平均点は TOEIC[®] スコアに換算すると 345 ~ 395 点 (ヨーロッパ共通言語参照枠 Common European Framework of Reference for Languages, つまり CEFR では A2)、レベル III のクラスの平均点は 470 ~ 570 点 (CEFR では A2 ~ B1) となる。
4. I の過剰使用については、Criterion[®] のトピックと ICNALE や NICER のトピックの違いが反映されている可能性が高い。特に ICNALE の 2 つのトピックについては一般論を展開できるため、I の使用頻度は低くなる可能性が高いことは考慮すべきである。
5. 図 1 が示すように、1 人の学習者が mother を多用している場合もあるが、1 回のみ使用している場合もある。人数でいえば、37 人が mother を使用している。

6. これらの語の使用頻度が高く現れる現象については、エッセイのトピックを念頭にした場合の学生の「フレーム」或いは「スキーマ」の観点から考察できる可能性があるが、今後の課題にしたい。

参考文献

- Granger, S. (Ed.) (1998). *Learner English on computer*. Longman, London.
- Ishikawa, S. (2013) The ICNALE and sophisticated contrastive interlanguage analysis of Asian learners of English. *Learner corpus studies in Asia and the world*, 1, 91-118.
- 石川慎一郎 . (2019). 英語学習者コーパス研究の現状と課題 . 電子情報通信学会 基礎・境界ソサイエティ *Fundamentals Review*, 12(4), 280-289.

- Sugiura, M., Narita, M., Ishida, T., Sakaue, T., Murao, R., & Muraki, K. (2007). A discriminant analysis of non-native speakers and native speakers of English. In M. Davies, P. Rayson, S. Hunston, P. Danielsson (Eds.). *Proceedings of the Corpus Linguistics Conference, CL2007: University of Birmingham, UK, 27-30 July 2007* (pp. 1-17 of Article #216). Birmingham, UK: University of Birmingham.

- 投野由紀夫・金子朝子・杉浦正利・和泉絵美 (編著) (2013). *英語学習者コーパス活用ハンドブック*. 大修館書店, 東京 .

謝辞

早くエッセイのデータを提供してくださった学生の皆様に、心より感謝申し上げます。

資料 1

使用したクライテリオンレベルとトピックは以下の通りである。

Level **[5th Grade]**

Topic **[Feeling Happy]**

Feeling Happy (Descriptive)

Think about something that made you happy recently. Describe fully what happened and how you felt. Also explain why it made you feel that way.

Level **[6th Grade]**

Topic **[Alien Encounter]**

Alien Encounter (Narrative)

Imagine you're walking home when a spaceship carrying three teenagers from another planet lands in front of you. The aliens have come to learn about life on Earth, and they want you to be their guide! What happens next? Use your imagination to finish the story.

Level **[6th Grade]**

Topic **[Desert Island]**

Desert Island (Narrative)

Write a short story that begins with you sitting in your classroom and ends with you on an island trying to get back home. How did you get there? What does the island look like? Is anyone else on the island with you? How do you spend your time there and how do you get home?

Level **[6th Grade]**

Topic **[Lesson Learned]**

Lesson Learned (Narrative)

Many stories center on an important lesson that a character learns, such as "Honesty is the best policy." Write a story about a character who learns about honesty. Be sure to include all the events that help your character learn about the importance of honesty

(<https://criterion.ets.org/Content/topics/topics.htm> より抜粋)